

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	1ユニット ケアのあり方について、現状維持に努めているが更に良くなるにはどうすれば良いかの話し合いを行っていききたい。、個々の能力を引き出す工夫を行いケアの質を高めていきたい。	・『職員間のケアのアセスメントをする』 できない。するしない。わかるわからないを明確にすることで、一人ひとりの職員の力から職員全体の力まで、様々な解決方法を見出しチームワーク力も高まる。	・個別対応の情報や認知症ケア知識を把握できる仕組みをつくる。実行する。できる、する、わかるを一つでも増やし、職員一人ひとりが可能なことは続けられようにする。 ・カンファレンスやミーティングの有効活用	12ヶ月
2	13	2ユニット 利用者の状態や精神的・身体的な負担軽減を優先するが為に急変時等、慣れた職員がすぐに行ってしまう、職員間で知識と技能に差が出てしまっている事に最近になって気づく事が出来た。	・体験する機会に、経験者が利用者の負担軽減の為に『傍で見守る』が反省と成功を何度も繰り返して体験できる現場を作っていきたい。	・急変時、管理者と一緒にいるが補助に努める。 ・利用者の認知症の症状、身体状態で気になる事を報告する際は、改善案や対応策も考えてから報告に来る機会を作ってみる。経験者も報告を受ける際はそこまで聞き出すように努める。	12ヶ月
3	48	2ユニット 看取り、身体介助、不穏時の対応は日々反省と達成を繰り返し、着実に成長しつつあると思う。ただ、認知症状が軽症な方の進行予防を考えた役割作り、日課作りはまだ課題が多いように思う。	・最初から日課になりそうな事を考えるのではなく、様々な事を試し、記録を重ねる中で日課になりそうな事を探し続ける。	・これまでの看取りや不穏時の対応方法の模索と同じように試しながら、チームで記録・状態の把握に努めて徐々に形にしていける。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。